

当院では、9月15日、17日の2日間に分け、リハビリテーション部に対し、看護部による喀痰吸引についての研修が行われました。

吸引とは、口腔内、のど（咽頭、喉頭）、鼻腔、気管、気管支などに溜まっている分泌物（痰など）を、吸引器などを利用して体外に出すことを言います。

今までは医師、看護師によって行われていた医療行為ですが、厚生労働省によるチーム医療推進の観点から、H22年4月よりリハビリテーションでの吸引が認可され、当院でも吸引が必要な場面で、「迅速」に対応するために、今回の研修を実施しました。

日本で誤嚥（痰や胃液が気管や気管支内に入ること）などによる肺炎での死因は第4位であり、90歳以上では第2位とされています。高齢な患者様が多く入院されている当院では、肺炎のリスクがある方も多く、さまざまな視点から介入していく必要があると考えております。

今後、住み慣れた地域、自宅での生活を支援を積極的に取り組んでいく方針の当院からの訪問リハビリにおいて、リハビリテーション部のセラピスト達の喀痰吸引の技術向上は必須となります。

このような研修を引き続き行っていき、他職種との連携から、より良質で安全な医療を提供し、皆様に喜んで頂けるよう務めていきます。

